



日本アジア投資株式会社 2017年3月期 期末決算説明会 質疑応答 要旨

2017年5月16日（火）開催

Q1：2017年3月期の特別損失の内訳は何か？

A1：従来連結基準の特別損失のうち、主なものは減損損失 130 百万円。福島県で開発していたメガソーラープロジェクトの採算性が悪化したため、開発を中止したことにより発生したものである。

《平成 28 年 10 月 12 日付の弊社開示資料「特別損失計上に関するお知らせ」にも詳細を記載しておりますので、併せてご覧ください。》

http://www.jaic-vc.co.jp/vcms_lf/jrelease_20161012.pdf

Q2：新規ファンド設立目標の内訳は？

A2：①国内ベンチャー投資向けファンド 30 億円、②事業承継型バイアウト 20 億円、
③スマートキャップグロース向けターゲットファンド 5~10 億円、④First Eastern との共同ファンド 180 億円（国内外合計）。

このうち、①と②は第 1 四半期での設立を目指している。それ以外は、下期以降期末にかけての設立を目指している。

Q3：2016年3月期末の決算説明時に目指していた姿と比べて、管理報酬の目標額が減少した理由は？

A3：従来は、管理報酬で販管費と支払利息の全てをカバーすることを目標として、そのために必要な管理報酬額を目標値に設定していた。その後、メガソーラーの売却や新規事業など新規の安定収益源が出てきたためファンド設立計画を見直した結果、管理報酬額が減少した。

なお、現在は、管理報酬で賄うべきコストは販管費と支払利息の総額ではなくファンドの運営に直接要するコストのみと捉えている。他のコストは、メガソーラーの売電収入や売却益、新規事業の収益で賄っていく。

Q4 : First Eastern との共同ファンド設立が遅れている理由は？

A4 : First Eastern とは、中国と日本で共同ファンドを設立すべく協議中である。

中国のファンドは、First Eastern が出資者候補である市政府と協議をしていたが、最近の中国の政情により協議が遅れている。

国内のファンドは、インバウンド関連の企業などを投資対象として First Eastern がネットワークを持つ国内の大手企業を主要な出資候補先と想定している。First Eastern とは継続的に協議をしており、当社としても、4月1日付で担当部署を新設し、経験豊富な担当執行役員を登用することで体制を強化したところであり、今後は協議が進むと考えている。

Q5 : 再生可能エネルギープロジェクトの売却益は、今後漸減していくのか？

A5 : 投資した再生可能エネルギープロジェクトのうち、どのプロジェクトをどの程度の規模で売却するかは、他の収益や資金需要とのバランスを見極めながら決めていくため、一概にどのような傾向があるかは言えない。

なお、2018年3月期の従来連結基準による業績見込値において、再生可能エネルギープロジェクト投資事業の営業収益は700百万円となっているが、これをボトムラインとしてできる限り利益の上積みができるよう努力していきたい。

以上